

平成25年度 病害虫発生予察注意報 第2号

平成25年7月19日
栃木県農業環境指導センター

作物名：水稲

病害虫名：斑点米カメムシ類

- 1 発生予想 発生量 多い
- 2 発生地域 県内全域
- 3 注意報発表の根拠

(1) 7月中旬に県内33地点のイネ科雑草地等でのすくい取り調査を行った結果、全ての地点で斑点米カメムシ類の発生が認められ、発生虫数も平年より多い(表1)。特に、アカスジカスミカメ(図1)の発生(平年比414%)が極めて多い。

(2) 気象庁発表の関東甲信地方1か月予報(7月12日発表)によると、晴れの日が多く、高温で推移する見込みで、斑点米カメムシ類の活動、繁殖に適している。

表1 イネ科雑草地における斑点米カメムシ類成虫の発生状況(20回振りすくい取り虫数)

	斑点米カメムシ類 成虫	発生種の内訳			
		クモヘリカメムシ 成虫	ホソハリカメムシ 成虫	アカヒゲホソミドリ カスミカメ成虫	アカスジカスミカメ 成虫
H25	209.9	12.0	6.1	65.0	126.8
平年	90.2	31.5	2.9	25.3	30.6
対平年比(%)	233	38	210	257	414
発生概評	多	やや少	多	多	多

※本年は7月10～11日に33地点で20回振りすくい取り調査を実施。

※平年値は平成15年～24年の10年間の平均値(調査時期7月中旬)。



図1 アカスジカスミカメ成虫



図2 アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫



図3 クモヘリカメムシ成虫



図4 ホソハリカメムシ成虫

◎防除対策

○耕種的防除（病害虫防除対策のポイント：斑点米カメムシ類の防除対策を参照）

・水田内にイネ科雑草などが残っている場合は、斑点米カメムシ類を誘引するので除去する。

・水稻出穂2～3週間前に行う1回目の水田周辺の除草が済んでいる場合には、2回目の除草を水稻の出穂期頃（除草したイネ科雑草が出穂する前）に行う。

・水稻出穂2～3週間前の1回目の除草が実施できていない場合は、遅くとも水稻の出穂期10日前までに除草を行い、出穂期頃の除草は避ける。

・本年は、平年に比べ、出穂期が早まる可能性があるため生育診断情報を確認の上、水田周辺雑草の除草時期に注意する。



図5 斑点米カメムシ類による被害粒

○薬剤防除

・穂揃期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、液剤・粉剤ならば乳熟初期（出穂期7～10日後）まで、粒剤ならば出穂期～出穂期7日後までに防除する。

・その後も斑点米カメムシ類が見られる際は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行う。

表2 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成25年度7月16日現在）

薬剤名	希釈倍数又は使用量	使用時期／使用回数
スタークル1キロH粒剤	1kg／10a	収穫 7日前まで／3回以内
スタークルメイト1キロH粒剤		
ダントツ粒剤	3～4kg／10a	収穫 7日前まで／3回以内
スタークル液剤10	1000倍	収穫 7日前まで／3回以内
スタークルメイト液剤10		
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫 14日前まで／2回以内
キラップフロアブル	1000～2000倍	収穫 14日前まで／2回以内
キラップ粉剤DL	3～4kg／10a	収穫 14日前まで／2回以内
スミチオン乳剤	1000倍	収穫 21日前まで／2回以内
スミチオン粉剤3DL	3～4kg／10a	収穫 21日前まで／2回以内※1
トレボンEW	1000倍	収穫 21日前まで／3回以内

※1 但し、出穂前は1回

詳細は、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」でも発信中です。

(TEL 028-626-3086)